

# 環境経営レポート

運用期間：令和6年6月1日～令和7年5月31日



発行日：令和7年8月29日



エコアクション21  
認証番号0006986

株式会社 平谷建設

# 環境経営方針

## — 基本理念 —

(株)平谷建設は、地域との共生を目指して取り組み、社員一人ひとりが地球環境の保全とその継承の重要性を認識し、基本方針に基づき継続的に環境保全活動を推進してまいります。

## — 基本方針 —

当社は、事業活動が与える環境負荷を低減するために、次の方針に基づき、環境経営活動を推進し、地球環境との調和を目指します。

1. 当社の事業活動にかかわる環境影響を常に認識し、積極的に環境への取り組みを行い継続的な環境負荷の低減を図ります。
2. 当社の事業活動に関わる環境関連の法令、その他を遵守します。
3. 当社の事業活動に関わる環境影響のうち、下記の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。

①二酸化炭素の排出量（電力及び化石燃料の使用量）の削減

②水使用量（排出量）の削減

③廃棄物の削減及びリサイクルの推進

④グリーン購入の推進

⑤環境に配慮した施工・サービスの提供

⑥清掃等社会貢献活動の推進

⑦現場環境の改善推進

4. この環境経営方針を全従業員に周知するとともに、環境経営レポート等で社外へも公表します。

上記方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し環境経営システムを推進します。

制定日 平成22年 9月 27日

改訂日 令和 3年 5月 1日

株式会社 平谷建設

代表取締役 西原正彦

# 事業所の概要

## (1) 名称及び代表者名

株式会社 平 谷 建 設  
代表取締役 西 原 正 彦

## (2) 所在地

(本 社) 徳島県那賀郡那賀町大殿字川口3番地  
(倉 庫) 徳島県那賀郡那賀町成瀬字中郷30-1  
(資材置場) 徳島県那賀郡那賀町大殿字上川端

## (3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 谷 光  
EA21事務局 河野 晶  
(TEL) 0884-67-0121 (FAX) 0884-67-0125  
(E-mail) [hiraken@ca.pikara.ne.jp](mailto:hiraken@ca.pikara.ne.jp)

## (4) 事業の概要

特定建設業 (許可番号) 徳島県知事許可 (特-7) 第149号  
(許可業種) 土木工事業、とび・土工工事業、しゅんせつ工事業  
解体工事業、水道施設工事業

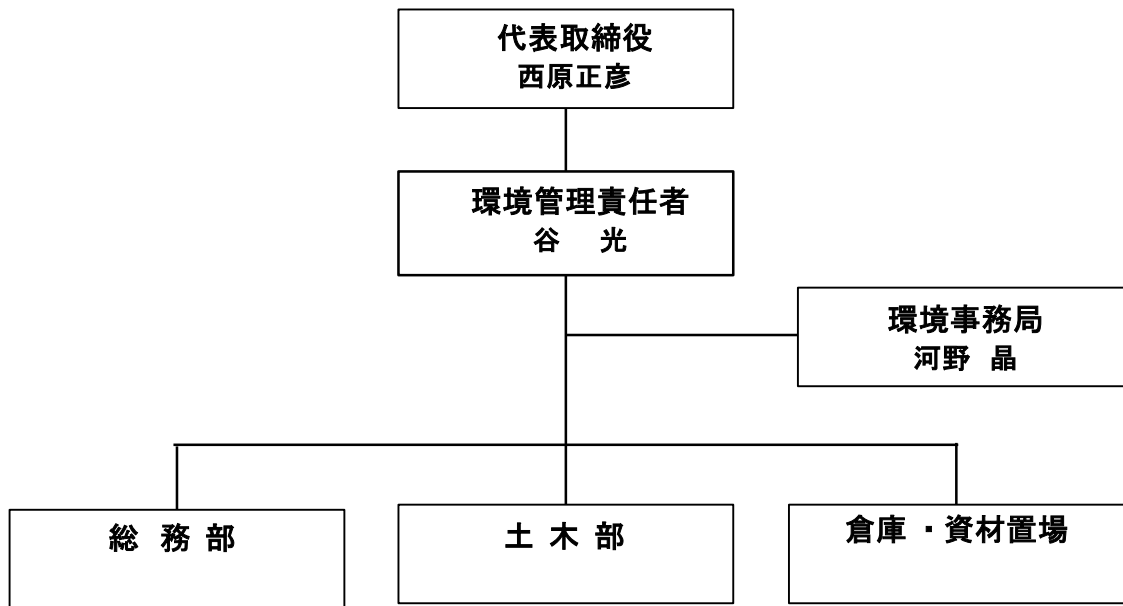
## (5) 事業の規模

- ・ 売 上 高 457百万円 (※令和6年度)
- ・ 資 本 金 2,000万円
- ・ 従 業 員 数 26人
- ・ 事 務 所 床 面 積 100㎡
- ・ 倉 庫 延 べ 床 面 積 600㎡
- ・ 資材置場延べ床面積 600㎡

## (6) 認証・登録対象範囲

全組織・全活動を対象とする。  
ただし、事業活動の水道施設工事業は除く。

## 環境経営システム組織図



職 位	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境経営に関する統括責任</li> <li>・ 環境経営システムの実施及び管理に必要な、人、設備、費用を用意</li> <li>・ 環境管理責任者を任命</li> <li>・ 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>・ 環境経営目標の設定を承認、環境経営レポートの承認</li> <li>・ 代表者による経営における課題とチャンスの明確化</li> <li>・ 代表者による全体の評価と見直しを実施</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境経営システムを構築し、実施し、管理</li> <li>・ 法規制等の要求事項登録簿を承認・遵守チェック</li> <li>・ 環境経営活動実施計画書を承認・評価、指示</li> <li>・ 緊急時対応手順書・緊急事態記録の承認、環境経営レポートの確認</li> <li>・ 問題点処置の承認・評価、指示</li> <li>・ 環境経営活動の取組結果を代表者へ報告</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施</li> <li>・ 環境経営目標・環境経営活動実施計画書原案の作成、環境経営レポートの作成と公表</li> <li>・ 環境経営活動実施計画の実績集計</li> <li>・ 法規制登録管理リストの作成・遵守チェック</li> <li>・ 問題点処置表の作成</li> <li>・ 環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> </ul>
部 門 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自部門における環境経営システムの実施</li> <li>・ 自部門における環境経営方針の周知</li> <li>・ 自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>・ 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録</li> <li>・ 自部門に関連する環境経営目標及び環境経営活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>・ 自部門の問題点の発見、是正、予防措置及びその報告</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境経営方針を理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・ 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

## 環境経営目標とその実績

項目	単位	平成29年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
		上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
		実績(基準値)		目標値		目標値		目標値		目標値		
事務所	①二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	4,351.7	5,329.1	4,294.5	5,253.6	4,273.0	5,227.3	4,251.7	5,201.2	4,230.4	5,175.1
	②電力使用量	kWh	3,724	3,862	3,650.1	3,785.3	3,631.8	3,766.4	3,613.7	3,747.6	3,595.6	3,728.8
	③燃料使用量	ℓ	1,159.0	1,523.6	1,136.0	1,493.4	1,130.3	1,485.9	1,124.7	1,478.5	1,119.0	1,471.1
	④水使用量	m <sup>3</sup>	41.0	47.0	40.2	46.1	40.0	45.8	39.8	45.6	39.6	45.4
	⑤一般廃棄物排出量	t	0.161	0.141	0.158	0.138	0.157	0.138	0.156	0.137	0.155	0.136
	⑥グリーン購入の推進	品	1品		5品以上		5品以上		5品以上		5品以上	
	⑦社会貢献活動	回	3回		4回以上		4回以上		4回以上		4回以上	
現場	①二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	213,847.4	127,373.1	209,602.4	124,844.7	208,554.4	124,220.5	207,511.6	123,599.4	206,474.0	122,981.4
	①-1二酸化炭素排出量/売上高	%	0.091		0.090		0.090		0.089		0.089	
	②電力使用量	kWh	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	③燃料使用量	ℓ	83,135.0	49,766.3	81,484.7	48,778.4	81,077.3	48,534.5	80,671.9	48,291.8	80,268.6	48,050.4
	④産業廃棄物リサイクル率	%	100.0		100.0		100.0		100.0		100.0	
	⑤環境に配慮した施工サービスの提供	%	100.0		100.0		100.0		100.0		100.0	

※購入電力のCO<sub>2</sub>排出係数 0.488(kg-CO<sub>2</sub>/kWh) (株)グリムスパワー

※購入電力のCO<sub>2</sub>排出係数 0.447(kg-CO<sub>2</sub>/kWh) 四国電力(株)

※ 定性的な目標 現場環境の改善を推進する(働きやすい環境をつくる)

※ ①～⑤項目 平成29年度実績を基準値としを年間毎年0.5%ずつ、令和9年度までに計5%削減する。

※ ⑦項目を年間4回以上活動する。

※ 現場では谷水使用のため、水使用量の測定は不可能である。

※ 化学物質は使用がないため目標に設定していません。

### ■環境目標とその実績 (運用期間：令和6年6月1日～令和7年5月31日)

項目	単位	令和6年度							
		上期	下期	上期	下期	年間値			
		目標値		実績		目標	実績		
事務所	①二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	4,230.4	5,175.1	4,138.8	5,960.0	9,405.5	10,098.7	環境に配慮した施工サービスの提供 1.尿素SCRシステム付バックホウの使用 2.超低騒音圧搾ブレーカの使用 3.県産材の看板の使用
	②電力使用量	kWh	3,595.6	3,728.8	3,472.0	3,024.0	7,324.4	6,496.0	
	③燃料使用量	ℓ	1,119.0	1,471.1	1,051.9	1,882.5	2,590.1	2,934.4	
	④水使用量	m <sup>3</sup>	39.6	45.4	37.0	31.0	85.0	68.0	
	⑤一般廃棄物排出量	t	0.155	0.136	0.149	0.137	0.291	0.286	
	⑥グリーン購入の推進	品	5品以上		5品		5品	5品	
	⑦社会貢献活動	回	4回以上		4回		4回	4回	
現場	①二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	206,474.0	122,981.4	81,868.8	135,902.9	329,455.4	217,771.7	産業廃棄物リサイクル率 = $\frac{\text{再資源化量}}{\text{総排出量}} \times 100$
	①-1二酸化炭素排出量/売上高	%	0.089		0.050		0.089	0.048	
	②電力使用量	kWh	0.0	0.0	0.0	2,098.0	0.0	2,098.0	
	③燃料使用量	ℓ	80,268.6	48,050.4	32,147.3	53,074.8	128,319.0	85,222.1	
	④産業廃棄物リサイクル率	%	100.0		100.0		100.0	100.0	
	⑤環境に配慮した施工サービスの提供	%	100.0		100.0		100.0	100.0	

#### ～評価～

事務所では、電気使用量及び燃料使用量の削減目標が達成できています。今後もこまめな節電やアイドリングストップなどで削減に努めます。

現場においては、今年度の売上高は対基準年比1.19倍と増加しているが、CO<sub>2</sub>排出量は対基準年比0.65倍と減少している。

その要因としては、工種で掘削工及び残土処理工が減少し、大型機械等の稼働率も減少したためである。

今後も重機使用時の燃料削減手順書を再認識するなど、目標達成のため努力していく。

## 主要な環境経営活動計画の内容 取組結果の評価並びに次年度の取組内容

(運用期間：令和6年6月～令和7年5月)

経営計画	達成状況	評価（結果と次年度の取組内容）
<b>電力使用量の削減</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ設計商品の選択購入</li> <li>・エアコンの設定温度（冷房28℃暖房20℃）</li> <li>・パソコンのオートオフ機能設定</li>   <li>・倉庫、現場事務所の不在時電源オフ</li> </ul>	(事務所) 目標：7,324.4kWh 実績：6,496.0kWh 達成率：113 %  (現場) 目標：0 kWh 実績：2,098.0kWh 達成率：－ %	事務所では、年間使用量の削減目標が達成できた。今年度も古くなったエアコンを省エネタイプに買換えるなど節電に努めており、継続する。  現場では、工事箇所、内容により数値目標の対比は困難であるが、次年度以降もこまめな電源オフに努める。
<b>燃料使用量の削減</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイドリングストップ等エコドライブの推進</li> <li>・車両の自主点検の実施</li>   <li>・燃料消費の少ない建設機械等の選定</li> <li>・燃料消費の少ない省エネ重機への買替え</li> <li>・ダンプトラックによる過積載防止</li> </ul>	(事務所) 目標：2,590.1ℓ 実績：2,934.4ℓ 達成率：115 %  (現場) 目標：128,319.0ℓ 実績：85,222.1ℓ 達成率：152 %	事務所では、わずかながら年間使用量削減の目標達成ができなかったがアイドリングストップや急発進・急加速を避けるなど削減に努める。  掘削工及び残土処理工の工事量の減少に伴い、大型機械等の稼働率も減少したため、燃料使用量の削減は達成できた。今後も今年度同様、燃料削減手順の遵守や重機購入時には省エネタイプを選定するなど削減に努める。
<b>上水使用量の削減</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレ用水の節水</li> <li>・こまめに蛇口を閉める</li> </ul>	(事務所) 目標：85m <sup>3</sup> 実績：68m <sup>3</sup> 達成率：125 %	目標達成できた。今後も継続していく、
<b>廃棄物排出量の削減・リサイクルの推進</b> (一般廃棄物) <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイボトル活動の推進</li> <li>・使用済み用紙・封筒等の再利用</li> </ul> (産業廃棄物) <ul style="list-style-type: none"> <li>・マニフェストによる廃棄物管理の徹底</li> </ul>	(事務所) 目標：0.291t 実績：0.286 t 達成率：102 %  (現場) 目標：100 % 実績：100 % 達成率：100 %	目標達成出来た。 次年度も飲料容器等の削減のため、マイボトル活動は継続していく。  目標達成出来た。次年度も継続していく。
<b>グリーン購入の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務用品のエコマーク商品優先購入</li> </ul>	(事務所) 目標：5品 実績：5品 達成率：100 %	目標達成できた。次年度も継続していく。
<b>社会貢献活動の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロードアプト事業、その他ボランティア活動への参加</li> </ul>	目標：4回以上 実績：4回 達成率：100 %	国道の清掃事業等を行い目標達成できた。次年度も継続していく。
<b>環境に配慮した施工・サービスの提供</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場毎に適した環境に配慮した施工</li> <li>・従業員から環境改善意見の募集</li> </ul>	(現場) 目標：100 % 実績：100 % 達成率：100 %	目標達成できた。 次年度も担当者とは十分協議し、環境に配慮した施工に努める。
<b>現場環境の改善推進（働きやすい環境づくり）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4週8休体制の推進</li> <li>・残業時間の短縮</li> </ul>	(現場) 令和6年5月より完全実施 工事工程管理を適正化し残業時間の短縮ができた。	目標を達成できた。 次年度もけいぞくしていく。

・次（R7）年度の期間における環境経営活動計画の内容は、R6年度の内容を継続して取り組むこととする。

## 環境関連法規制等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

区分	適用される法規制	適用される施設規則内容	遵守確認
基本・一般	地球温暖化対策の推進に関する法律 環境配慮促進法 徳島県環境基本条例 徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例 那賀町景観条例	事業活動に伴う排出抑制と、国・自治体の施策への協力 事業者による環境報告書の作成・公表を促し、環境負荷の少ない事業活動を推進する。 県、県民、事業者がそれぞれ役割を果たし、協同して環境保全に取り組む。 温室効果ガスの排出削減計画書や実施状況報告書の作成・提出。 建築物の色彩や高さ、配置、看板の設置などにおいて、景観に配慮する。	○
廃棄物	グリーン購入法 廃棄物の処理及び清掃に関する法律／産業廃棄物 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法） 特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法） 那賀町廃棄物の処理及び清掃に関する条例	環境配慮型製品の需要を増やし、環境に配慮した市場拡大と持続可能な社会の実現。 事業活動に伴う廃棄物を排出事業者が自らの責任で適正に処理する。 元請業者による分別解体と再資源化。 事業者は収集・運搬料金と再商品化料金を支払う。 事業活動に伴うゴミ（一般廃棄物）を自らの責任で適正に処理し、減量に努める。	○
水質	浄化槽法	し尿や生活雑排水を適正に処理し、水質汚濁を防ぐ。	○
大気汚染	特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律（オフロード法） フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	建設機械等特殊自動車の排ガス（窒素酸化物、粒子状物質）による大気汚染を抑制し、生活環境を保全する。 業務用冷凍空調機器（第一種特定製品）の機器に対して簡易点検（3カ月ごと）を行う。	○
騒音・振動	騒音規制法 振動規制法	特定建設作業における騒音レベルの基準を遵守する。 特定建設作業を行う場合に振動の基準値の遵守や届出を行う。	○

環境関連法規制等の遵守状況の定期評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。

日付 令和7年8月5日  
代表者 西原正彦

## 代表者による全体評価と見直し・指示

事務所では、燃料の使用量が微増したが電気使用量が減少したが、CO<sub>2</sub>排出量の削減目標は達成できています。継続しながら、より一層こまめな節電やアイドリングストップなど削減に努めたい。

現場においては前年、重機や運搬車両の買換えるなど取組を行ったのと、工事量の減によりCO<sub>2</sub>排出量の削減目標が達成できた。今後も燃料削減手順の順守や重機、運搬車両の省エネタイプへの買換えを検討するなど一層削減に努めたい。

また、社会貢献活動にも積極的に参加できたが、今後さらに回数を増やし、活動範囲を広げていきたい。

環境系方針、環境経営目標・計画、実施体制の見直しはありません。

## 環境活動・社会貢献活動のご紹介

活動内容	[尿素SCRシステム]バックホウの使用
活動詳細	No <sub>x</sub> を削減する[尿素SCRシステム]が搭載されていることにより、エンジンからの排出ガスは、尿素水と混ざり合い、SCR触媒で無害な水と窒素に還元され、排出ガスの削減に貢献できた。



活動内容	高圧洗浄機による粉塵防止対策
活動詳細	工事用道路において、路面の粉塵等の舞い上がりを防止するため高圧洗浄機による散水作業を行い周辺の環境美化に努めた。



活動内容	超低騒音油圧ブレーカの使用
活動詳細	超低騒音仕様SS-BOXは、油圧ブレーカ自体に遮音・防音・防振効果を持たせたことで、作業現場の騒音問題や周辺環境、労働環境問題の改善等に対応でき、騒音環境負荷の低減に貢献できた。



活動内容	国道沿いの清掃活動
活動詳細	道路沿いの清掃作業を行った。その結果、道路が美化され、地域の環境向上に貢献できた。
	

活動内容	国道沿いのごみ収集活動
活動詳細	道路沿いの空き缶・ペットボトル、落ち葉収集等のゴミ収集作業を行った。その結果、道路が美化され、地域の環境向上に貢献できた。
	